

My sugar pie

【My sugar pie】

「そういうえばお前って自炊しないよな。もしかして、料理作れないのか？」

ふと思いついたという雰囲気です。エヴァンがヴィクトルに問いかけた。場所はエヴァンのセーフハウスのひとつ。港町にある、治安がほどほどに悪く、殺し屋の彼にとっては居心地の良い部屋だ。

「……………別に作れないわけじゃない。面倒だし、仕事が忙しくて作る時間もないし、買ってきただけで食べた方が楽なだけだ」

答えたヴィクトルの職業は警察官だが、逮捕の為なら悪どい事もする不良警官である。そのヴィクトルの仕事は確かに忙しく、なかなか料理まで手を回せないというのには理解できる。が。

「ふーん？ それにしては、回答に間があった気がしたが。じゃあ、たまには愛しい恋人の手料理が食べてみたいんだが、どーだ？ My sweet muffin?」

「……………いいだろう。ただし、文句は言うなよ」

「Yes, sir.」

そして、約三十分後。

「あっはっはっはっ！ これは見事な炭焼きでー！」

「……………」

そこには真つ黒焦げになった、何かの食材であったものが鎮座していた。

爆笑するエヴァンに対して、当然、ヴィクトルの顔は渋面である。

「はあーあ。笑ったー。できないなら、最初から言えばよかったのに。プライドが高いなあ。さて。今日の夕飯は何作るかなあ。ここだと新鮮な魚介類も手に入るし、パエリアとかアクアパツアとかがいいかー？」

エヴァンが冷蔵庫の中を覗きながら、テキパキと食材を選んでいく。料理する姿も手慣れたものという

感じでもスムーズだ。ヴィクトルはそれをぶすつとしながら眺めている。そして、食卓にはエヴァンが作った美味しそうな料理が並んだ。味も文句なしに旨く、余計にヴィクトルの機嫌は悪くなっていく一方。

そして、食事もたいらげ、エヴァンが片付けも終わると、ソファーに懽然として座っているヴィクトルをみとめ、思わず苦笑が浮かんできた。

(流石に笑いすぎたか。別に料理なんかできなくてもいいし、むしろ可愛いからいいんだけどなあ)

「笑って悪かったよ。そろそろ機嫌直してくれないか? My sugar pie?」
エヴァンはソファーに回り込んで、目尻のあたりに軽くキスを落とし、ヴィクトルのご機嫌取りにあたる。

ヴィクトルはじつとエヴァンを見つめていたかと思うと、ニヤリと笑ってエヴァンをソファーに引き倒し、上に乗り上げてきた。

「旨い料理のお返しに、デザートを用意しよう。極上のシュガーパイだ。喜べよ?」

そう言っつて巧みなキスを仕掛けてきた。

(それは願ったり叶ったりだ!)

喜んでキスを深くしながら、互いに服を脱がせ合う。そして、エヴァンが愛撫しようとヴィクトルの身体に手を伸ばすと、即座にその手を叩き落とされた。

「俺が食べさせてやると言ってるんだ。今日は何もするな」

「……了解」

エヴァンが大人しく腕を下ろすと、ヴィクトルが焦らすように全身にキスを落とす。たまにつけられるキスマークはエヴァンの褐色肌では目立ちにくい。反対にヴィクトルの白い肌には映えるのだが、あまりつけさせてはくれないのが不公平である。

ヴィクトルが際どい所までキスをする。だが、肝心の所にはまだ触れられておらず、期待に硬く立ち上

がる。

エヴァンがそろそろ焦らされるのも限界かと、ヴィクトルにお願いしようとしたのに気付いたのか、やつと男根に舌を這わせられる。よく動く舌と技巧に凝った口淫に早くも根を上げそうになる。

「相変わらず上手いな。すぐイキそー」

「……まだイカれては困るな」

一度口を離れたヴィクトルは全く困ってなさそうに告げる。

「濡らせ」

ヴィクトルはエヴァンの口元に指を差し出す。

この場にローションがないので唾液で代用しようという事なのだろう。エヴァンは直接舐めてやってもいいのになーと思いつつも、素直にヴィクトルの指に唾液を絡ませる。

充分に濡らした指を引いたかと思うと、ヴィクトルはエヴァンの顔を跨ぎ、そのままエヴァンの雄を舐めながら、エヴァンの顔前で蓄をほぐし始めた。

エヴァンはごくりと唾を飲み込むと、目の前で行われる淫技に目を奪われながらヴィクトルに問う。

「なあ、俺も舐めていい？」

「駄目だ」

即答するヴィクトルに愛称でもって懇願する。

「……トーラ、」

「駄目だ」

「もう、なんて拷問なの……」

【続きは本編で】

【奥付】

タイトル・My sugar pie ——サンプル——

著者・咲良椿姫

サークル・Whimsically.

シリーズ・箱庭世界のヒトカケラ。

発行日・二〇二三年一月十五日 文学フリマ京都7

印刷所・プリントオン様

メールアドレス・ciel06918@yahoo.co.jp

Twitter・[@Nstda_Vitte](https://twitter.com/Nstda_Vitte)

HP・Whimsically.

<https://whim.jp.net/>

本書の無断転載・複製、オークション・フリマサイトなどでの転売は固く禁止致します。